

子宮けいがんの予防について ～HPVワクチンについて知ってください～

HPVワクチンは、**小学校6年から高校1年相当の女性**を対象とした定期予防接種です。現在、子宮けいがんの原因の**80～90%**を占めるHPVの感染を予防できる**9価HPVワクチン**が、公費（自己負担なし）で接種できます。

子宮けいがんを予防するために、下記についてご理解の上、是非HPVワクチンの接種についてご検討ください。



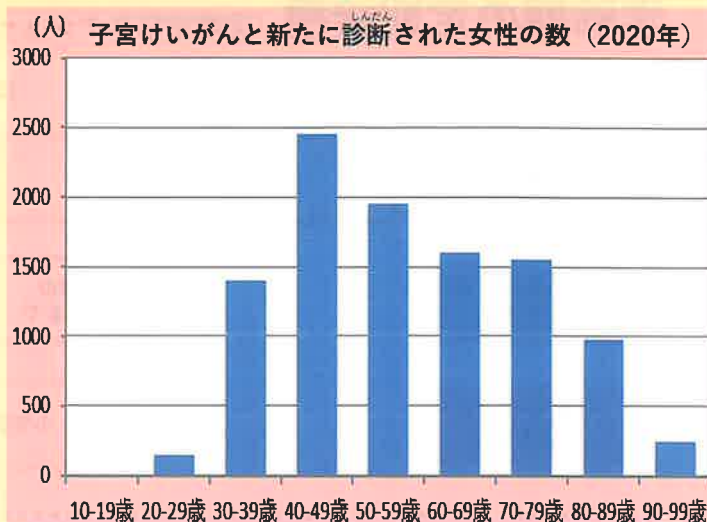
子宮けいがんとは？



子宮けいがんは、子宮のけい部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられています。

日本では**毎年、約1万人の女性**が子宮けいがんになり、**毎年、約3,000人の女性**が亡くなっています。

25～40歳の女性のがんによる死亡の第2位は、子宮けいがんによるものです。HPVは一度でも性的接触の経験があれば、だれでも感染する可能性があります。



子宮けいがんでは苦しまないためにできることは、**HPVワクチンの接種**と**子宮けいがん検診の受診**の2つです。
(HPVの感染を予防) (がんを早く見つけて治療)

HPVワクチンの効果

- ・ HPVの中には子宮けいがんを起こしやすい種類のものがあります。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。
- ・ 9価ワクチンは、子宮けいがんの原因の**80～90%**を防ぎます。
- ・ がんになる手前の状態が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることも分かってきています。

HPVワクチンのリスク

- ・ 接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。
- ・ ワクチンの接種を受けた後に、まれにですが重い症状が起こることがあります。ワクチンが原因となったものかどうかかわからないものをふくめて、接種後に重篤な症状として報告があったのは、ワクチンを受けた**1万人あたり約2人です。**

HPVワクチンを受けていても2年に1度は検診を受けることが大切です。